

米国カリフォルニア州 生食用ブドウはハリケーンで2,500万箱の損失

The Packer 2023年9月1日

ニュースリリースによると、ハリケーンヒラリーは、カリフォルニア州で栽培されている90品種の生食用ブドウのほとんどの収穫ピーク時に、ブドウ園に多くに風と雨をもたらした。さらに、その余波として多くの産地が嵐の後で再び雨と高い湿度に見舞われたため、問題が悪化した。

カリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ委員長はリリースで、「ハリケーンとその余波の影響は壊滅的で悲痛である。控えめに言って、生産者と農業労働者のコミュニティはショックを受けている」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

リリースは、ハリケーンが襲った時までには収穫されていたものが約30%で、残りの生食用ブドウの35%(2,500万箱)が失われたと推計されるとしている。

「カリフォルニア州の改訂出荷予測は、19ポンド(8.6kg)箱で7,190万箱である。出荷量が7,500万箱を下回ったのは1994年以来である。」

ネイブ氏は、カリフォルニア州は9月1日以降に出荷量の65%以上を出荷するのが通例であると指摘し、改訂予測に基づいて、業界が出荷する予定のブドウはまだ4,500万箱以上あると述べた。

「小売店で消費者に接することは、委員会が行う仕事の重要な部分である。小売業者と連携してブドウを店頭のパラに並べ、消費者に宣伝することは、出荷シーズンを通して続く仕事である。」

ネイブ氏は、小売業者は嵐が引き起こした被害と、その結果として人件費がどれだけ上がるかわかっていると述べた。

「小売業者は、熟練労働者がいたとしても、残りの作物の多くを収穫するのに時間がかかることを理解しており、したがって、秋を通してブドウを小売店の棚に出せるようにするには、生産者に支払われる価格が収穫するのに値するものでなければならないことをわかっている。」

ネイブ氏は、業界は今後数週間にわたって状況の評価を継続し、必要に応じて最新情報を提供する予定であり、委員会はシーズンを通して小売での販促活動と消費者への広告キャンペーンを継続すると述べた。

(関連記事)米国 カリフォルニア州の生食用ブドウの半分が失われたと思う

FreshPlaza 2023年9月4日

先週、カリフォルニア州生食用ブドウ委員会は、ハリケーンヒラリーのために推定2,500万箱のカリフォルニア州産生食用ブドウが失われたと報告した。ハリケーンは、収穫期の真っ只中の8月20日曜日に同州を襲った。プリティレディ(Pretty Lady)ブドウ園のニック・ダルシッチ氏は、「これは控えめな見積もりだと思う。この辺りで見たと、少なくとも4千万箱の損失だと思うが、当初予想されていた9,690万箱の収穫量のうち5千万箱になる可能性もある」と言う。(以下「」は同氏の発言)

同氏はさらに、産地全体が過度の降雨に見舞われたと述べた。「その日曜日は午前10時から深夜まで雨が降り、マリコパ地域等の主要なブドウ産地に大量の雨が降った。」収穫期の真っ最中に全部で2~3インチの雨が降った。「少なくとも800エーカー(320ヘクタール)は収穫ができない。」

タイミングは最悪であった。「我々は早生品種と中生品種の間にいた。」シュガードロップ、スグラオーネ、フレームは早生品種であり、収穫は終了していた。しかし、嵐はクリッシー、グリーンエメラルド、スカーレットロイヤルなどの品種の収穫の直前に来た。「その結果、それらは大きな損失を被った。収穫間近だった品種では、裂果が多く見られる。晩生の品種では、多くのブドウが腐っており、収量は減少する。」(以下省略)

執筆者: マリーケ・ヘムズ